



1 蒸気タービン・発電機 2 生産基地の坑井 3 蒸気を大気に開放するサイレンサ 4 装置や機械をコントロールする制御室 5 復水器から出る温水を冷却する冷却塔 6 上空からの全体写真(岩手地熱提供) 7 開所式テープカット 8 安全祈願祭



松尾八幡平地地熱発電所

最大出力7499キロボツ

22年ぶりに国内で地熱発電所稼働

松尾八幡平地地熱発電所が稼働

八幡平アスピーテラインの御在所パーキング付近に建てられた松尾八幡平地地熱発電所は1月29日、本格運転を始めました。最大出力は7499キロボツで、一般家庭の消費電力に換算すると1万5000軒分相当。国内で出力7000キロボツを超える地熱発電所の稼働は22年ぶりです。

運営するのは岩手地熱株式会社(本社・柏台、水田幹久社長)。平成23年10月に松尾八幡平地域における地熱開発を目的に設立され、25年から地質構造を確認するための構造試験井の掘削を進めてきました。29年に事業化が決定。同年4月から建設を始め、30年12月に試運転を行いました。本事業は、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構から助成を

受け、出資対象事業として採択された国内初の案件。発電した電力は再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)を活用し、東北電力株式会社へ売電され、特定卸のアーバンエナジー株式会社へ供給されます。供給された電力の一部は、市内の公共施設や民間事業者に供給され、電力の地産地消を図っています。

開所を祝い、安全稼働願う

アスピーテラインが開通し、本格的な雪解けを迎えた4月19日に、同発電所で開所式と安全祈願祭が行われました。

関係者ら約100人が出席。岩手地熱の水田社長は「地元の理解と国のさまざまな支援策で事業を進めることができた。今後も地元の皆さまと連携を密にし、将来にわたって電力を安定的に供給し続けていきたい」と力強くあいさつしました。